

第89回 東葛しぜん観察会

街中の森と巨木を訪ねる

藤田 隆 (松戸市)

日 時：2013年3月3日（日）10:00～12:30 天気：晴れ

場 所：新松戸界隈から関さんの森・溜ノ上の森（松戸市）

参加者：一般 42名、指導員 21名

担当指導員：草野幸子・田中玉枝・藤田 隆

新松戸駅前に参加者が集まり、一般参加者 42 人という大きな集団になりました。3班に分かれて時間差で行動しました。道のりは市街地の狭い道を歩く場合は、一列縦隊が必須となるため、一つの班が長くなってしまう傾向があります。時間配分に調整の必要を感じました。私の班ではできるだけ参加者の参加意識を高めるため、説明は短く、参加者の持つ知識をみなさんに披露してもらう様な工夫は出来ないか、いろんな方に発言の機会が持てるような導きをしたいと思いました。

顔ぶれを見ただけでは分かりませんでしたので、赤城神社ではクロガネモチを説明する方、トリモチの説明をそれぞれ別の方に話を来てもらいました。松戸市の舌状台地のへりを歩きましたので、アップダウンがとりわけ足に響き、身体の疲労を誘います。上りにかかる階段での声かけ、上りと下りには注意が肝心だと思いました。

幸谷観音のモミノキでは、先に樹種を示すのではなく、葉の先が二股に分かれていることを示して、見分けかたをお話しし、カヤとの違いを確認しました。

関さんのお庭では熊野権現の御神木とされるカヤ、百年ザクラ、梅林中にあるケンポナシ、大木のキンモクセイ、貴重なものが残されているのを感じました。森を開放し、近隣の幼稚園、保育園、小学校から子どもたちが遊びに訪れ、木にかかる名札から子どもたちと森が親しんでいる様子が想像できました。道路工事に伴って、関さんのお宅を迂回する形で工事は進みましたが、2本あるケンポナシは、移植し、根付くのを見守っているということでした。

花島家のスダジイは車道からも見て取れる立派な姿に、この地を見守るランドマーク的な勢いを感じました。溜ノ上の森では、森に迫る住宅地との折り合いの難しさを聞くと、森の遊歩道で昨日の強風の影響を受けて折れかかった枝が今にも落ちてきそうな気配だったこと、落ち葉の季節には隣接の家々の屋根に落ち葉を降り積もらせるのだろうことは想像でき、住宅地の森の管理の難しさなどを肌で感じました。

人口密度が急激に増えた新松戸地区の中で緑地を残す努力を重ねている。その姿に心を打たれると感じられた方がいらしたことが、今回のコース設定は成功だったと言えるのではないかと思いました。



幸谷観音で野馬捕の献額や御神木 イチョウの説明